

第3章 参考資料

第1節 設計図書の記号

3.1.1 管種記号

詳細図及び透視図に記入する管種記号は次図のとおりとする。

管種	直管	ライナ管	継輪	G-Link
GX 形管				
NS 形管				
K 形管				
管種	直管		ソケット	
水道配水用 ポリエチレン管				

仕切弁 (耐震型)	
消火栓	
空気弁	
バルブ付 T 字管	
伸縮可撓管	
管路断水器	

3.1.2 管種簡略
記号

詳細図及び透視図に記入する管種記号は次図のとおりとする。

管種	記号	備考
水道用合金鉛管	L . P	Leaden Pipe
水道用脱酸銅管	C . P	Copper Pipe
水道用亜鉛メッキ鋼管	G . P	Gas Pipe
水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管	V . L . G . P	Vinyl Lining Steel Pipe
水道用タールエポキシ樹脂ライニング鋼管	T . L . G . P	Tar Epoxy Lining Steel Pipe
水道用鑄鉄管	C . I . P	Cast Iron Pipe
水道用メカニカル型ダクタイル鑄鉄管	M . D . I . P	Mecanical Ductile Iron Pipe
水道用メカニカル型ダクタイル鑄鉄管 (S 形)	M . D . I . P (S)	Mecanical Ductile Iron Pipe
水道用メカニカル型ダクタイル鑄鉄管 (S形)	M . D . I . P (S)	Mecanical Ductile Iron Pipe
水道用タイトン型ダクタイル鑄鉄管	T . D . I . P	Titon Ductile Iron Pipe
水道用タイトン型ダクタイル鑄鉄管 (N S形)	T . D . I . P (N S)	Titon Ductile Iron Pipe
水道用タイトン型ダクタイル鑄鉄管 (G X形)	T . D . I . P (G X)	Titon Ductile Iron Pipe
水道用塗覆装鋼管	S . P	Steel Pipe
水道用硬質塩化ビニル管	V . P	Vinyl Pipe
水道用耐衝撃性硬質塩化ビニル管	H . I . V . P	High Impact Vinyl Pipe
水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管	P . L . G . P	Polyethyne Lining Steel Pipe
水道用ステンレス鋼管	S . S . P	Stainless Steel Pipe
水道用軟質ポリエチレン管	P . P	Polyethyne Pipe
ダクタイル鑄鉄	F . C . D	Ferrun Casting Ductile Pipe
水道配水用ポリエチレン管	H . P . P . E	Higher Performance Polyethylene Pipe

第2節 竣工図作成

3.2.1 一般事項

- 1 用紙のサイズは A1 版を標準とする。
- 2 提出部数は 2 枚とし、うち 1 枚は工事完成図書に綴るものとする。
- 3 平面図の作成
次図参照のこと。
 - (1) 新設の管種、口径、総延長並びに仕切弁等の口径、数量を引き出し線を用いて明示する。
 - (2) 新設管は実線、既設管は破線とし、併せて口径も明示する。
 - (3) 異径管等を使用した場合は、引き出し線を用いて材料名を記入する。
 - (4) 本管からの取り出し地点及び管の曲がり等、維持管理上その配管位置が明確となるよう、2 点以上のオフセットを記入すること。
 - (5) 新設管の官民境界からの出巾及び土被りを変化点ごとに、記入すること。
 - (6) 給水管の使用者氏名、栓番、口径及び境界等からの距離を記入すること。
 - (7) 防護コンクリート施工時は、寸法を明示すること。
- 4 標準横断図の作成
 - (1) 道路幅員、新設管の口径及び出巾等が相違する箇所ごとに作成すること。
 - (2) 新設管の口径、出巾及び土被り、道路幅員、他の地下埋設物等を記入すること。
- 5 配管詳細図の作成
 - (1) 配管状況を 3.1.1 管種記号に基づいて図示し、使用材料名を記入すること。
- 6 給水切替図の作成
 - (1) 給水管ごとに、使用者名及び栓番号を付して作成すること。

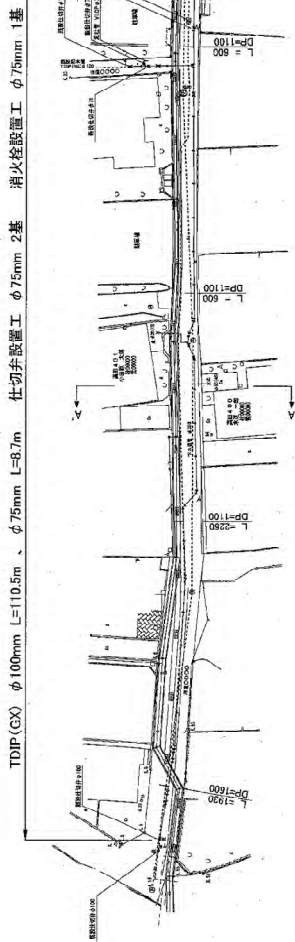
- (2) 給水管の口径、管種及び使用材料を記入すること。
- (3) 給水管の横引き及び立上り等の寸法を記入すること。
- (4) 既設給水管接続確認承諾書
- (5) 給水管更新報告書

7 標題欄の作成

- (1) 施工業者名を記入すること。
- (2) 工事名ほか必要事項を記入すること。

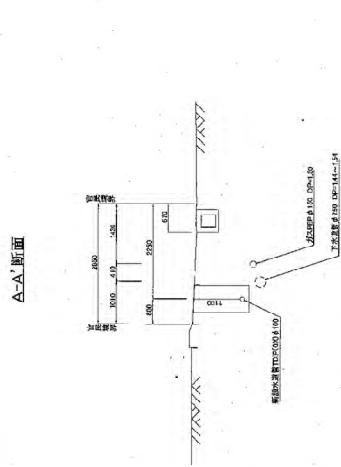
平面図

縮尺1:250

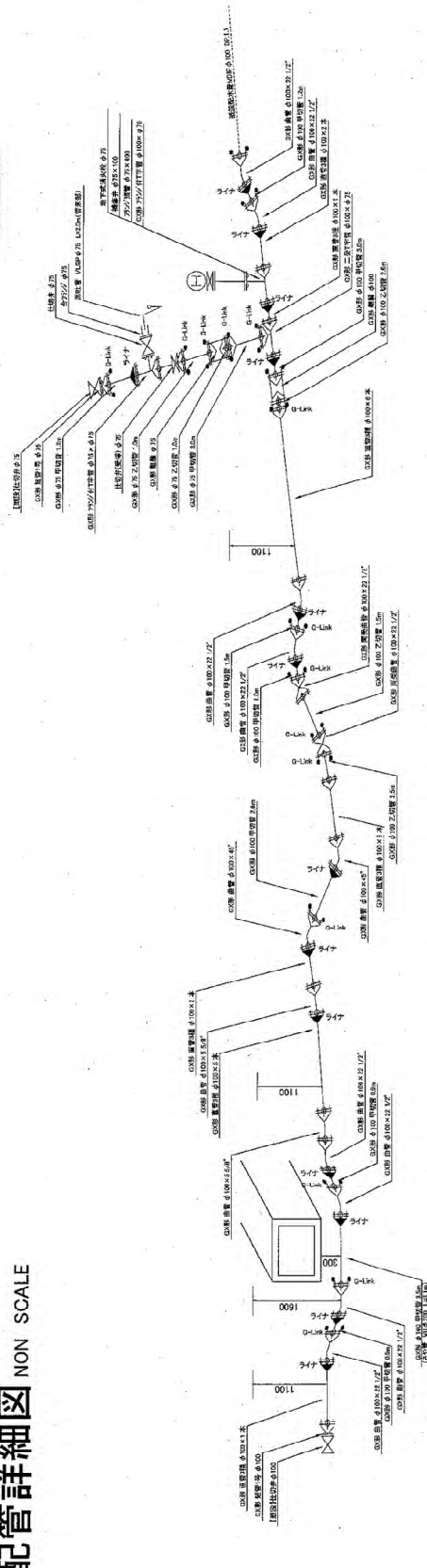


横断面

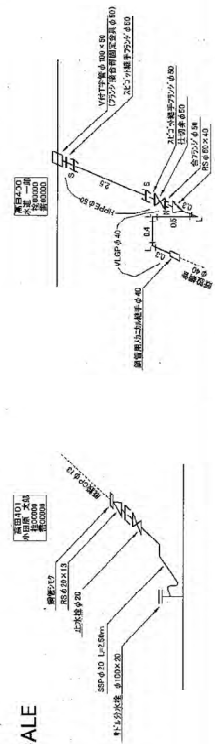
縮尺1:50



配管詳細図 NON SCALE



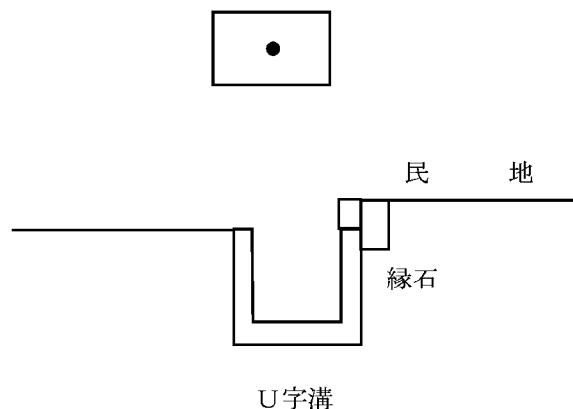
給水切替 NON SCALE




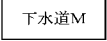
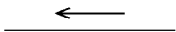



竣工図	
施工業者名	OO配管工事
工事名	OO配管工事
図面名	
作成年月	平成 年 月
施工位置	小田原市 市内
縮尺	図示
図面番号	1-1
設計	監 査 計
小田原市水道局	

第3節 仕切弁等のオフセット図の作成

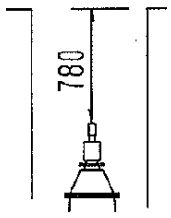
- 3.3.1 一般事項
- 1 配水管工事等で新規に設置した仕切弁、消火栓及び空気弁等のオフセット図は、縮尺 1/200 により、永久性の高い地物を測点とし、平板測量により明示すること。測点が永久性の低いものしかない場合は、できるだけ多くの測点から測ること。
 - 2 永久性の高い地物の順位は、次のとおりとする。
 - (1)境界標（公設、私設）
 - (2)下水道及び NTT のマンホール等。(水道、ガスの表筐は除く)
 - (3)境界線（構造物縁石、側溝）
 - (4)橋梁（新しい橋梁、古い堅固な橋、木橋）
 - 3 オフセット図は、工事完成届と同時に提出すること。
 - 4 仕切弁等ごとに作成すること。
 - 5 位置図の作成用紙の大きさは、JIS A4 判とする。
 - 6 オフセットの記入数値は、cm 単位とする。
 - 7 オフセット図の提出部数は、2 部とする。
 - 8 オフセット図の記入方法は、次のとおりとする。
 - (1)測定方法の例
 - ア 境界標は、基準点の中心とする。
 - イ マンホール等の場合は、丸形、角形とも蓋の中心とする。
 - ウ 縁石の場合は、縁石の道路側とする。
 - エ 側溝の場合は、側溝の天端外側（民地側）とする。
 - オ 橋梁の場合は、親柱の最短距離側の角とする。

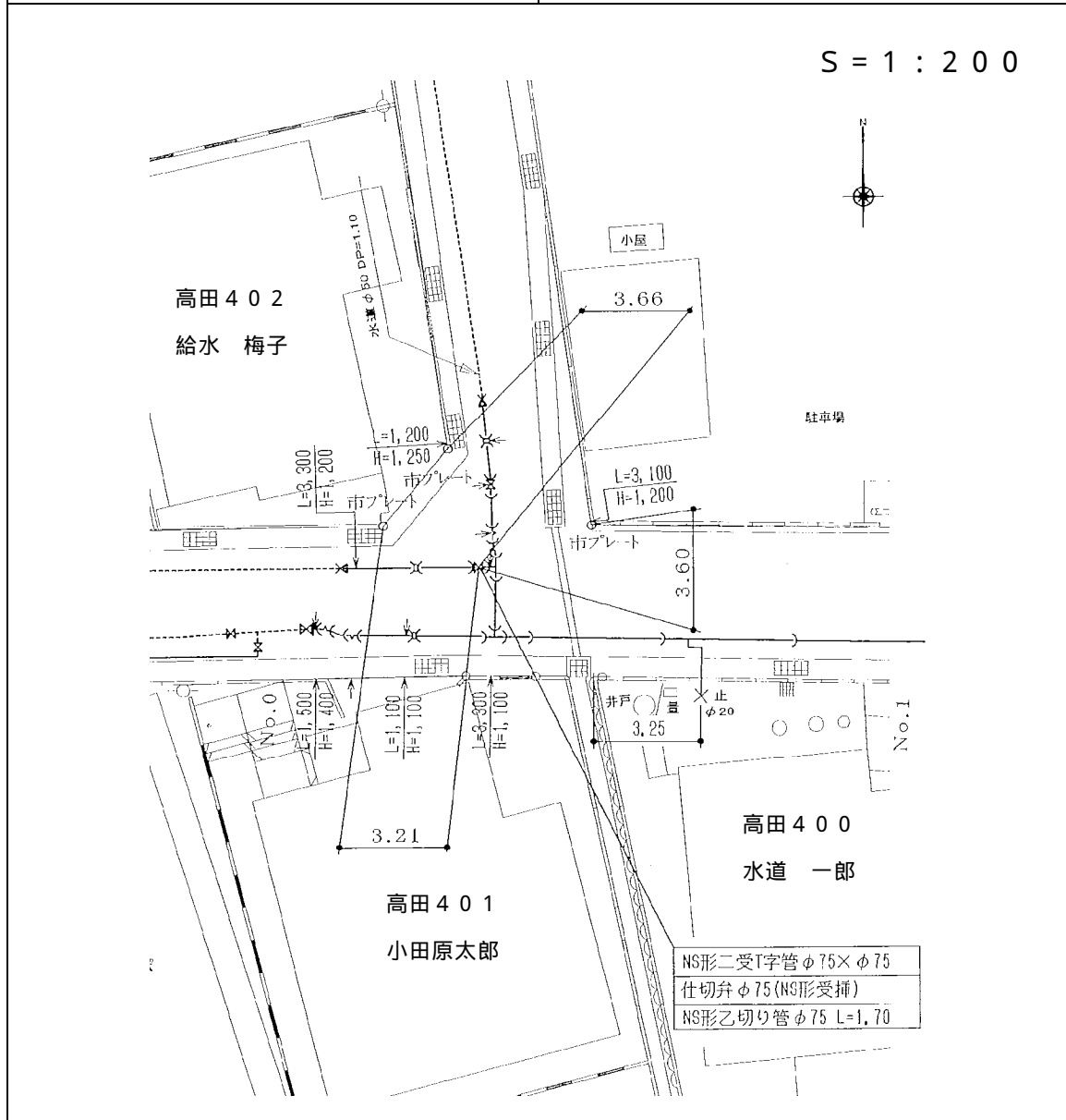


(2) 基準点の例

		下水道マンホール		側 溝
		NTTマンホール		
		境界標		

- 注) 1 基準点は、原則として3点以上とすること。
2 測点距離は、原則として10m以内とすること。
3 設置箇所を明確にするため、付近の住民の住所、氏名を記入すること。
4 配管の詳細と材料名を記入すること。
5 深度は、仕切弁等の天端から地盤までの寸法とする。
- 9 バルブオフセットの記入例を次図に示す。

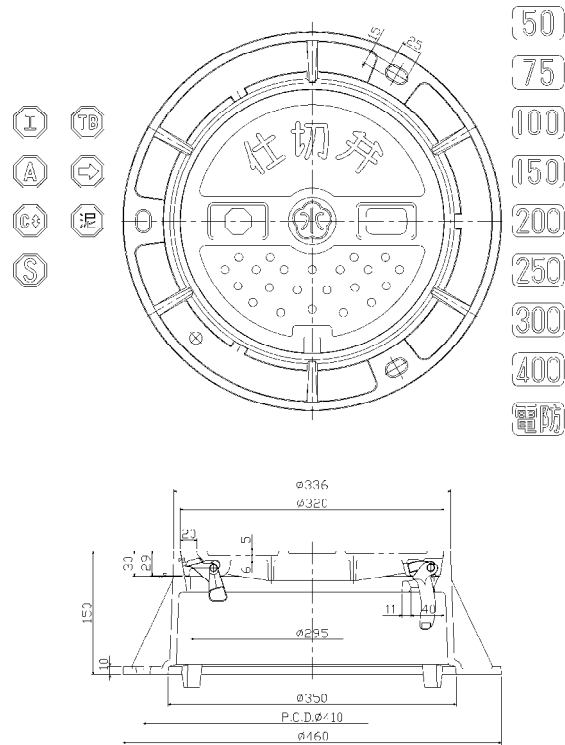
バルブオフセット図		配管図 No	
弁 No	口径	深度	備考
V - H - A -	100		消火栓及び空気弁の場合は、本管までの材料を記入 補修弁 75×100 ワッパ短管 75×150 ワッパ付丁字管 100×75
設置年月日	H 年 月 日	調査年月日	H 年 月 日



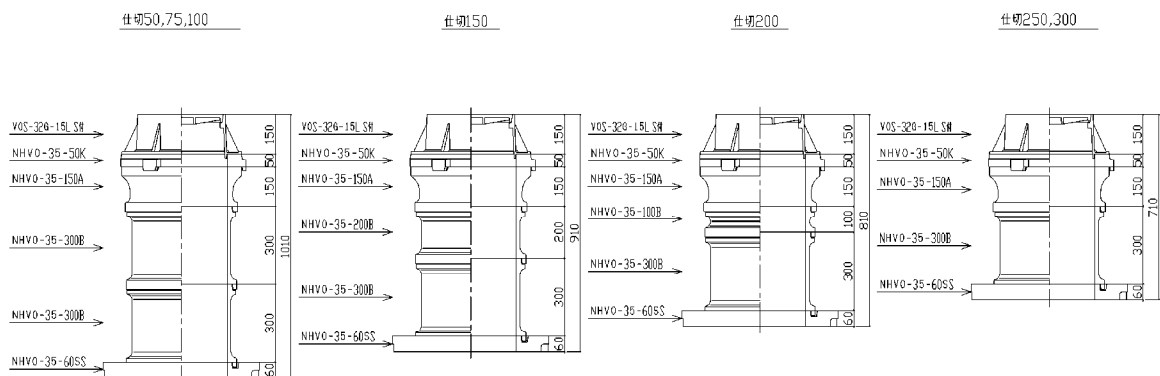
第4節 表筐及び室工の設置標準図

仕切弁表筐（丸形）及び室工の標準設置図を次図に示す。

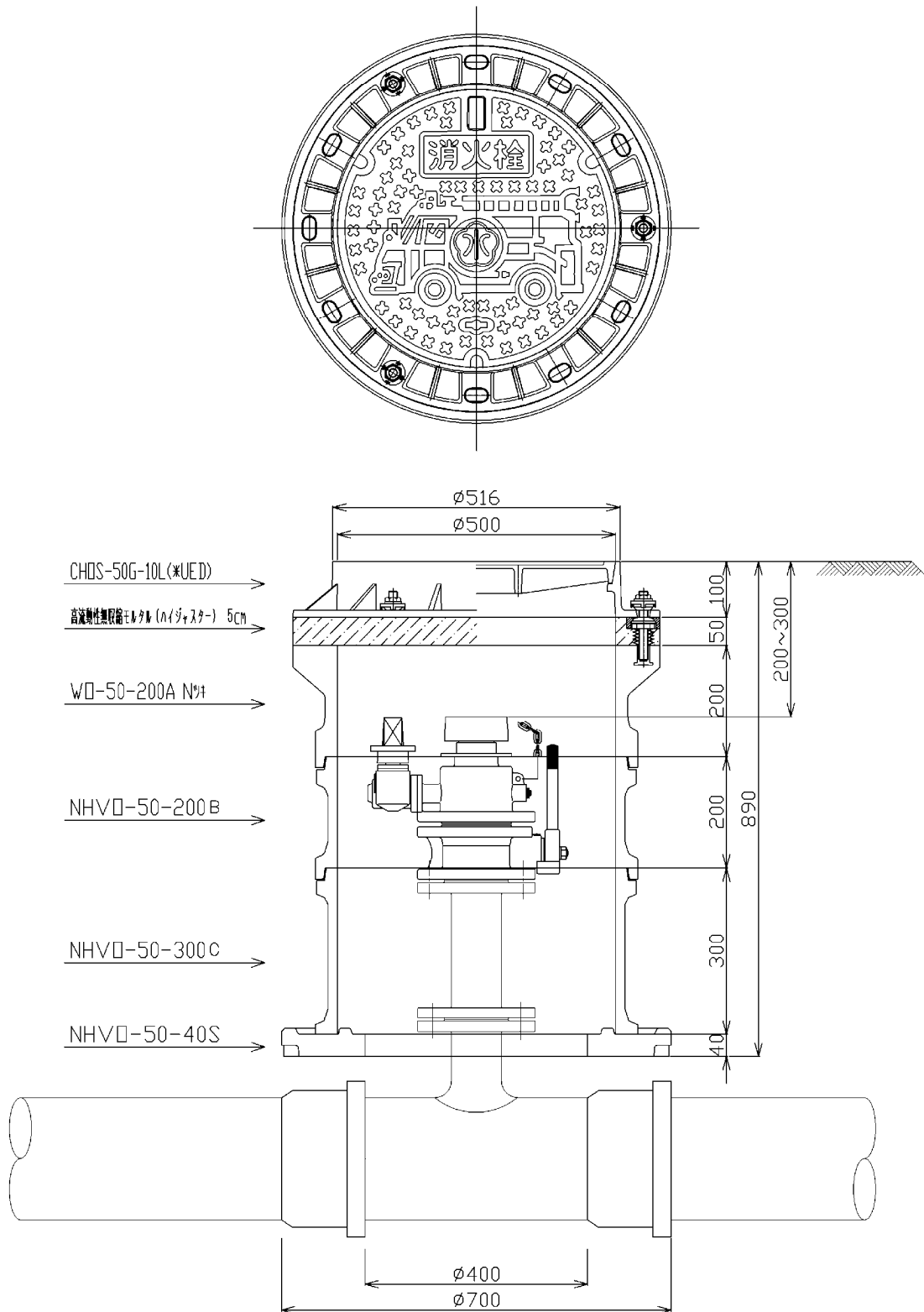
仕切弁表筐



仕切弁室工（ハイピット（参考 $D_p=1100$ ））

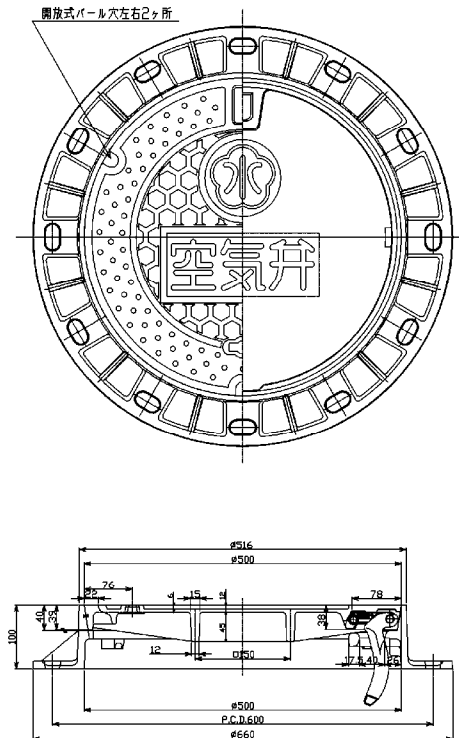


消火栓表筐の天端から放水口までの寸法は、原則として 200~300mm とする。

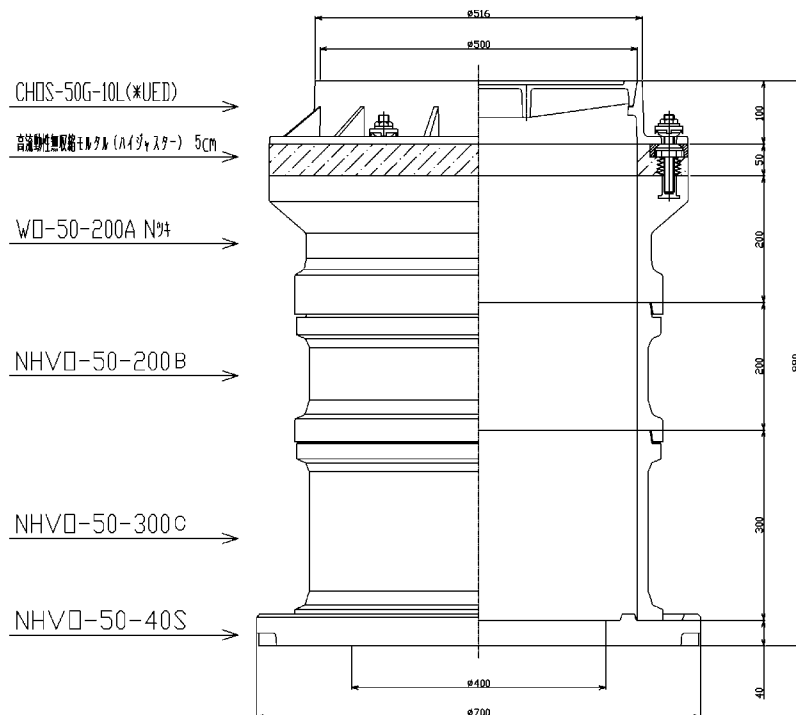


空気弁表筐（丸形）及び室工の標準設置図を次図に示す。

空気弁表筐

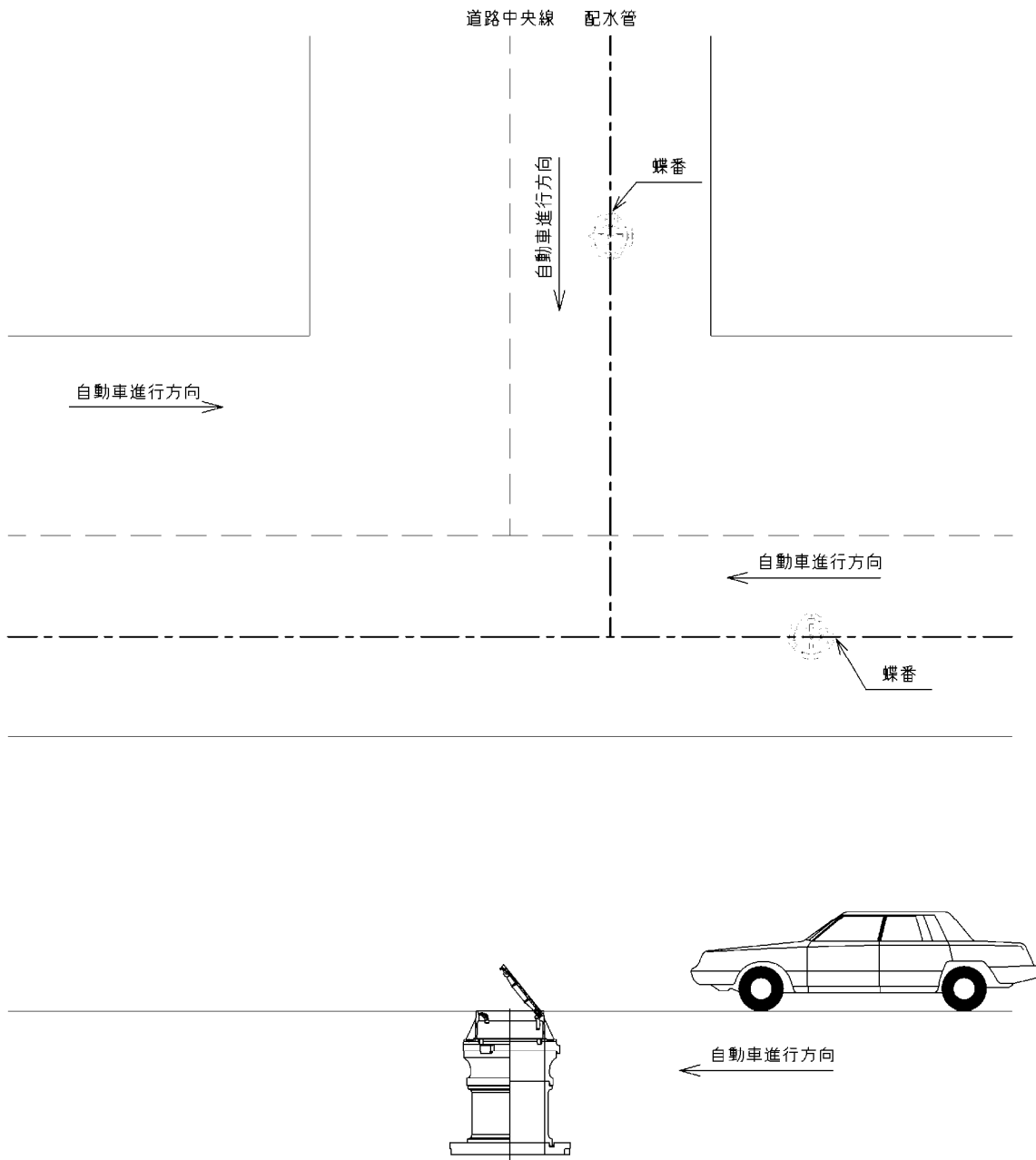


空気弁室工（ハイジヤスター）

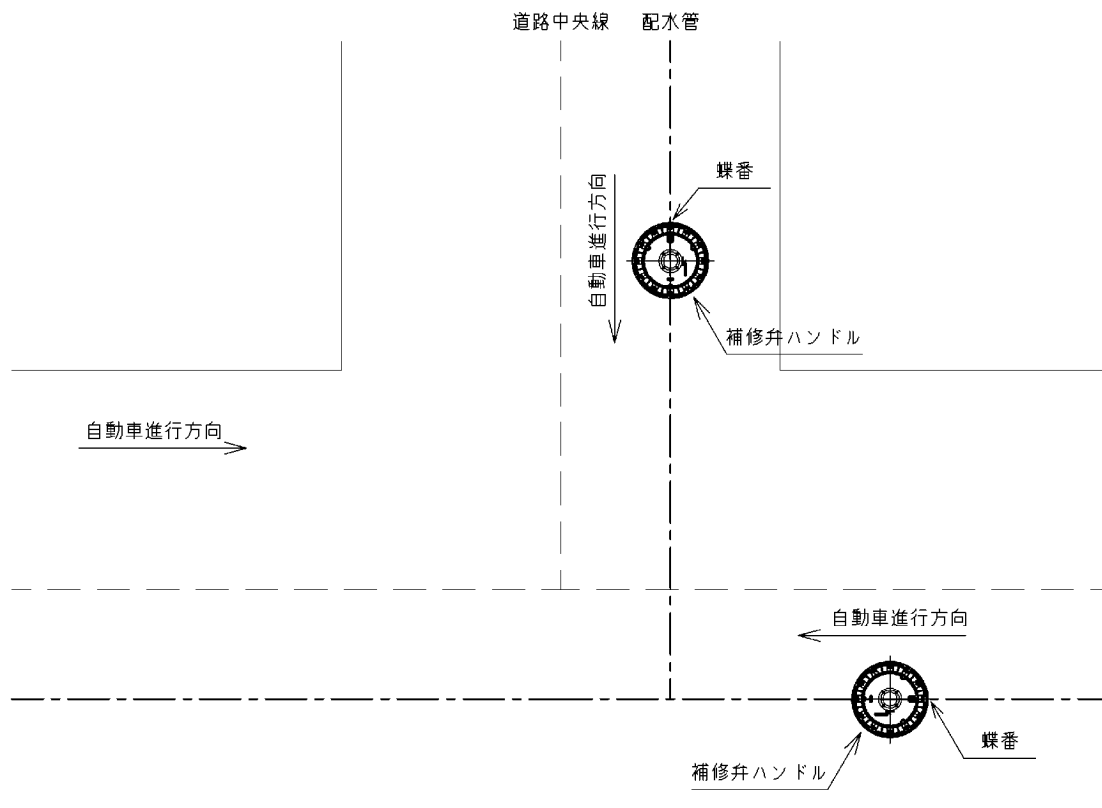


第5節 表筐及び補修弁の設置方法

1. 仕切弁表筐（丸形）設置方法について



2 . 消火栓、空気弁の表蓋(丸形)及び補修弁の設置方法について



第6節 交通管理標準図

1 . 標示施設等及び保安施設について

- ・ 道路工事における標示施設等の設置基準（国土交通省）
- ・ 道路工事保安施設設置基準（国土交通省）
- ・ 道路工事等における標示及び保安施設の設置基準（神奈川県）

上記設置基準に基づき実施すること。